

丹比真人の歌一首
たちひのまひと うた

一六〇九番

宇陀の野の 秋萩しのぎ 鳴く鹿も 妻に恋ふら
うだのの あきはぎ なしか つまこ
く 我にはまさじ
あれ

丹生女王、大宰帥大伴卿に贈る歌一首
にふのおほきみ ださいのそちおほとものまへつきみ おく うた

一六一〇番

高円の 秋野の上の なでしこが花 うら若み
たかまと あきの うへ はな わか
人のかざしし なでしこが花
ひと はな

笠縫女王の歌一首
かさぬひのおほきみ うた

一六一一番

あしひきの 山下とよめ 鳴く鹿の 言ともしか
あしひきの やました なしか こと
も 我が心夫
あ こころづま